【プレスリリース】

マカフィー株式会社
2020 年 3 月 26 日

※当資料は、米国時間 2020 年 2 月 24 日に米国で発表されたプレスリリースの抄訳です。

マカフィー、クラウドセキュリティへのオープンプラットフォームアプローチで パートナーの市場競争力強化を支援

新たな 8 つのパートナーシップと 7 つの認証統合により
パートナーの競争力を強化する McAfee CASB Connect 最新版

デバイスからクラウドまでを保護するサイバーセキュリティ企業である米国マカフィー（McAfee LLC、本社：米国カリフォルニア州）は、パートナープログラムの大幅な強化を発表しました。McAfee Security Innovation Alliance（以下、SIA）と McAfee CASB Connect プログラムへの新しい 8 つのパートナーシップと 7 つの認証が加わることで、企業はクラウド上の人、デバイス、データの安全を担保する競争優位性を得られます。

McAfee SIA は、オープンで相互運用可能なセキュリティ製品の開発を加速し、複雑な顧客環境での統合を簡素化します。また、相互接続した統合型セキュリティエコシステムを整備し、既存顧客のセキュリティに係る投資対効果を最大化します。McAfee SIA から派生した McAfee CASB Connect プログラムは、あらゆるクラウドサービスプロバイダーまたはパートナーが McAfee MVISION Cloud による SaaS アプリケーション上でのセキュリティ対策を迅速に実装できる**業界初のセルフサービスフレームワーク**です。これにより McAfee MVISION Cloud の保護下にあるクラウドサービスのデータに対する保護機能が強化されます。McAfee SIA プログラムに加わった新しいパートナーは以下の通りです。

- A10 Networks
- AttackIQ
- Cythereal
- D3 Security
- Dragos
- Indegy
- Mimecast
- Nasuni
- Nutanix
- OpenText
- Siemplify

クラウドサービスプロバイダーまたはパートナーが McAfee MVISION Cloud への軽量な API コネクター構築を可能にする McAfee CASB Connect フレームワークが大幅に拡張されました。その結果、以下の新しいサービスプロバイダーを MVISION Cloud Platform の保護下に置けるようになりました。

- Atlassian
- Clarizen
- DbCom
- Introhive

ほとんどのクラウドサービスの API の可用性と成熟度に関する不確実性とは対照的に、McAfee CASB Connect フレームワークは、管理および非管理のデバイスから、すべての認可および未認可のクラウドサービスを包括的に制御可能な統合プラットフォームを提供します。これにより、クラウドサービスとパートナーは MVISION Cloud Platform 上での追跡が可能になります。

CASB Connect を活用することで、MVISION Cloud のユーザーは単一のプラットフォームを介して、すべてのクラウドサービスで同レベルのデータセキュリティを実装し、以下のことが可能となります。

- 機密データおよび規制対象データを保護するデータ損失防止（DLP）ポリシーの徹底
- 内部および外部とのコラボレーションに対するセキュリティポリシーの徹底
- 異常なふるまいを検出するべく、フォレンジック調査の監査証跡を維持するためにログイン、データアップロード、データダウンロード、および管理者のアクティビティの調査
- ユーザー、場所、またはデバイス（管理および非管理共に）に基づいて、データアクセスとダウンロードを制御するコンテキストアクセスコントロールポリシーの徹底

マカフィーの戦略・アライアンス部門のエンタープライズ製品グローバルヘッドであるジェイブド・ハサン（Javed Hasan）は、次のように述べています。「すべてのクラウドサービスプロバイダーが MVISION Cloud との統合に必要な API を持っているわけではありません。そのような場合でも、CASB Connect フレームワークをそのまま使用して、最もクリティカルなユースケースをサポートするマカフィーの CASB プラットフォームに SaaS アプリケーションを迅速に実装可能です。この新機能のユニークな利点により、ユーザーは企業ネットワーク内外の管理または非管理のデバイスに機密データがダウンロードされることを防ぐセキュリティポリシーを徹底できます。」

マカフィーは、現在、McAfee SIA および McAfee CASB Connect プログラムを通じて合計 160 の統合パートナーを有しています。

Pacific Dental Services の最高情報セキュリティ責任者（CISO）であるネーミ・ジョージ（Nemi George）氏は、次のように述べています。「MVISION Cloud は、Office365、Box、AWS などのクラウドサービスを使用する際に当社の重要なセキュリティとコンプライアンスのニーズに可視性を担保しつつ対処することで、Pacific Dental Services（PDS）のビジネスのセキュリティを万全にしています。当社は、マカフィーの CASB Connect プログラムを通じて、同じ情報セキュリティポリシーとコントロールを Okta や SmartSheet などのクラウドサービスにシームレスに拡張しており、その結果、当社のクラウドの成熟度は向上し、TCO を削減しています。」

Atlassian のパートナーシップ・インテグレーション部門の責任者であるブライアント・リー（Bryant Lee）氏は、次のように述べています。「CASB Connect プログラムを通じ、マカフィーと Atlassian は連携して、高度なデータセキュリティと脅威防御機能を Atlassian の顧客に提供し、データ侵害やデータ損失のリスクを低減すると同時に、悪意あるアクティビティをより簡単に検出できるようにします。」

主なパートナーは以下の通りです。

- A10 Networks：A10Thunder®SSLi®は、トラフィックを復号化し、暗号化された攻撃をセキュリティデバイスが検出して阻止できるようにすることで、暗号化によるセキュリティの死角を排除する SSL / TLS 可視性ソリューションです。Thunder SSLi は、トラフィックをインターセプトし、それを複合化してクリアテキストで NSP に転送することにより、McAfee Network Security Platform（NSP）と統合します。これによって NSP は、暗号化されたトラフィックを容易に調査し、高度な侵入防止を実行し、パフォーマンスを損わずにマルウェアを分析することが可能になります。
- Clarizen：データのセキュリティとプライバシーに対する継続的な懸念に対し、マカフィーと Clarizen のパートナーシップは、大企業に対して、保護の強化を提供します。McAfee MVISION Cloud にセルフサービス API コネクターを活用することで、Clarizen は Clarizen One で管理されるコラボレーションとビジネスプロセスを犠牲にすることなく、データが安全かつセキュアであるという自信を顧客に与えます。
- D3 Security：D3 SOAR は、DNA に MITER ATT&CK を使用して、セキュリティオーケストレーション、オートメーション、およびレスポンスを提供します。これにより、SOC 担当者は、すべてのツールと資産にわたってインシデント対応ワークフローを調整し、迅速かつ一貫した修復を保証できます。D3 SOAR と McAfee ESM の統合は、調査の速度と品質を改善し、プロアクティブな分析を可能にし、MTTR を劇的に削減することで SOC および IR チームを支援します。ESM のイベントは、セキュリティインフラストラクチャとデータソースからの情報に自動的に対応する D3 の詳細なプレイブックをトリガーします。これにより、SOC 担当者は疑わしい動作と脅威に集中できます。
- DbCom：Eqube は、大規模な多国籍金融システムの機密顧客データを維持するために、DbCom によって設計およびホストされた規制順守システムです。DbCom にとってクラウドセキュリティコントロールは、顧客データをセキュアに保つために頻繁に監査を受けるため、非常に重要です。これらの組織が、自社の施設と AWS 上の DbCom ホストアプリケーション間でのデータ移動の内容とパターンについて、100％の明確性を持つことが重要です。マカフィーの CASB テクノロジーにより、DbCom は移動中のデータのリアルタイムの可視性を提供することができ、DbCom とその顧客に最大限の安心感を与えます。
- Indegy：Indegy Security Suite により、ユーザーは産業運用、運用技術（OT）、および IT ネットワークの可視性とコントロールを得ることができます。Indegy は産業用制御システム（ICS）イベントと OT セキュリティイベント情報を McAfee ESM で管理させるので、状況認識を強化するためにセキュリティ管理者は IT と OT の両方の環境を把握できます。
- Introhive： Introhive の API は MVISION Cloud とシームレスに統合され、顧客はユーザーの不注意な、悪意ある、および疑わしい行動を公開して修正できるようにします。これは、機密データが Introhive および顧客関係管理システムに Introhive Data Automation を介して統合されるのを防ぐのに役立ちます。
- Siemplify：セキュリティオーケストレーション、オートメーション、およびレスポンス（SOAR）の大手独立系プロバイダーである Siemplify はマカフィーと提携し、同社の主力製品である Siemplify Security Operations Platform を MVISION ePolicy Orchestrator を介してマカフィーの顧客が利用できるようにしました。業界全体で急速に普及が進む SOAR テクノロジーは、大規模なサイバー脅威のトリアージ、調査、およびレスポンスに必要な多数のツールとプロセスをシームレスに自動化および統合化することにより、セキュリティオペレーションチームがより効率的かつ効果的に作業できるようにします。

参考情報：
McAfee Security Innovation Alliance
McAfee CASB Connect Program（英語）

マカフィーについて
マカフィーはデバイスからクラウドまでを保護するサイバーセキュリティ企業です。業界、製品、組織、そして個人の垣根を越えて共に力を合わせることで実現するより安全な世界を目指し、マカフィーは企業、そして個人向けのセキュリティ ソリューションを提供しています。詳細は https://www.mcafee.com/ja-jp/ をご覧ください。

＜本情報のお問い合わせ＞
マカフィー株式会社（ https://www.mcafee.com/ja-jp/ ）
広報担当 戸田
東京都渋谷区道玄坂 1-12-1 渋谷マークシティウエスト 20 階
Tel: 070-2680-0731 Fax: 03-5428-1480
hiromi_toda@mcafee.com